

紫明の窓

発行：京都鞍馬口医療センター

編集：広報委員会

2018年5月 第5号



独立行政法人地域医療機能推進機構
京都鞍馬口医療センター

〒603-8151 京都市北区小山下総町27番地
TEL 075(441)6101代表 FAX 075(432)0825
URL <http://kyoto.jcho.go.jp>

ご挨拶

京都鞍馬口医療センター
看護部長 岩下真美



平成30年4月に異動してまいりました。当院の窓からは、五山の送り火や京都タワーなどが見渡せま
す。またこの時期の紫明通りは新緑が映え渡り、京
都に赴任できたことを心より喜んでおります。

当院の看護部の理念は「大切な人を任せられる看護」「自分が受けたいと思える看護」です。そのような看護を提供できる看護士の育成が当院看護部の教育理念です。安全で安心でき、心の通い合う、温もりのある看護、地域の皆様より信頼される看護の提供を目指しています。
医療・看護が変遷、発展していく中で、専門知識・技術の習得や看護の資質向上に日々研鑽・努力し、患者様、ご家族の方々に「ここであなたに会えてよかった」と思っていただけのような看護師であることを心がけています。
当院は、健康管理センター、訪問看護ステーションを併設、地域包括ケア病棟を開設しております。疾病の予防から在宅に至るまで地域の皆様に医療・看護が提供できる体制を整えております。また当院には、がん専門看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、感染管理認定看護師といった専門資格を有した看護師も在籍しており院内教育だけでなく、地域の看護師・介護士・ケアマネジャーの皆さんと共に講習会や技術研修会も実施しています。認定看護師による同行訪問の実施、地域包括ケア病棟では、一時的な入院をお受けいたしますので必要なときはいつでも活用していただければ幸いです。

一日も早く地域のことを理解し、皆様に必要とされる看護を提供したいと考えておりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



新入職医師紹介

(平成30年4月1日付)

- ①経歴
- ②専門分野
- ③趣味



半田 修
消化器内科部長
内視鏡センター長

①山口大学医学部卒／京都市立医科大学大学院卒②消化器内科、消化器内視鏡、ヘリコクター・ピロリ、小腸内視鏡、カプセル内視鏡③国内外の知らない土地を旅行し、古着に身を包んで歩き回り、古本屋で本を買い求め、白濁した湯に浸かり、その土地の酒を飲むこと。



松村 篤
外科医長

①京都市立医科大学卒／京都市立医科大学大学院卒②消化器外科、内視鏡外科、消化器がん化学療法③自転車（イベントやレースに年に数回参加しています）、学生の頃していたテニス、カメラ。



中林 周
内科医師

①鹿児島大学医学部卒／京都市立医科大学大学院卒業見込②膠原病内科、リウマチ内科



村上 貴彬
内科医師

①埼玉医科大学卒／京都市立医科大学大学院卒②消化器内科、主に大腸内視鏡検査や治療③中学時代にしていた野球です。年に2、3回程度ですが府立医大の医局対抗試合に出場しています。



松井 紗央梨
内科医師

①福井大学医学部卒／京都市立医科大学大学院卒業見込②血液内科③旅行、バスケットの試合観戦。



馬場 千紗
放射線科医師

①京都市立医科大学卒②放射線科、画像診断（単純写真、CT、MRI等）③読書、海外ドラマ観賞。



佐藤 良樹
歯科・口腔外科医師

①北海道医療大学歯学部卒②歯科保存学、口腔科学、有病者歯科学、障害者歯科学③水泳、温泉巡り。



林 佑希子
放射線科レジデント

①金沢大学医学部卒②読影を専門にすることを視野に勉強中③読書、旅行、料理。



片山 勇輝
内科レジデント

①京都市立医科大学卒②呼吸器内科、喘息やCOPD、肺癌、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群③卓球、カラオケ、ウイスキー収集。



河合 清佳
内科レジデント

①京都市立医科大学卒②代謝・内分泌分野③美味しい紅茶探し、好きな音楽を聴くこと、好きなCD・DVDのコレクションにぴったりの棚探し。



村井 淳二
臨床研修医

①山口大学医学部卒②医師として社会人生活をスタートしたばかりで、至らない点が多々あるかと思いますが、是非機会があればご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。③ラグビー（京都市内でラグビーチームを探しています）、旅行。



玉井 亮佑
臨床研修医

①川崎医科大学卒②臨床の現場に即した幅広い医学知識と診断・治療の技術の習得を目標とし、まず広い知識と技術をしっかりと身につけた上で、次に専門医として自分の志望する分野へさらに進んでいけるよう日々精進して参ります。③スキューバダイビング、ジェットスキー、グルメ探索。

〜 医院紹介 〜

ヤスムラ医院



昭和42年に先代 安村が上賀茂に医院を開業し、50年がすぎました。平成15年から、私 正田も参加するようになり「誠意をもって誠実に、情報を共有し、相互信頼を築き、満足 のゆく医療の提供を目指す」を理念として診 療をするように心がけています。

医院を引き継いだころに比べると、各病院に設置された地域連携室が機能的に運営されていることもあり、診療所と病院の連携が密接になり、患者さんの検査、外来受診や入院依頼などのための紹介が非常にスムーズになり、患者さん、ご家族の方の負担が少なく 有り難く思っております。

本院では、一般内科診療に加えて、適宜胃内視鏡や超音波検査などを行っておりますが、病院の先生方およびコメディカルの方々にはCT、MRI検査や特殊検査、さらには緊急での外来・入院対応など無理をお願いすることばかりです。また、検査結果、病状の経過を詳しくお知らせいただき、患者さんへの説明を的確に行えることを感謝しております。

まだまだ、患者さんから教わる ことばかりです が、地域での医 療の担い手とし て精進していき ますので今後と もよろしくお願 い申し上げます。



● 診療時間

	月	火	水	木	金	土
AM 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
PM 17:00~20:00	○	○	○	○	○	／

休診：日曜・祝日

医師紹介

第五回は、野本剛史先生を 紹介します。



2016年4月に泌尿器科部長として赴任させていただいた野本剛史です。

2008年に京都府立与謝の海病院泌尿器科医長を退職し、京都府立医大の系列を離れ腹腔鏡下手術の勉強のため神奈川にある東海大学に8年勤務させていただきました。2015年に京都府立医大の現浮村教授から、京都に戻って来ないかとお話をいただきました。当院に勤務させていただくことになりました。

患者さんが病院を選ぶ時、どういった基準で選ぶか？つまり選ばれる病院であるために我々にできることですが、勿論高度の医療技術をつけることも重要ですが、泌尿器科は他科よりも遥かに医療器具による所が多い状況です。

今後さらにロボット手術の適応拡大が広がっている状況で、患者さんを選んでもらえる病院になるのは厳しい状況ですが、当院で今行っているものの中で近隣の病院であまり行われていないものに前立腺肥大症に対するレーザー核出術があります。

この手術は本来、当院には導入されていない高い出力のホルミウムレーザーを用いた



レーザー発生装置



- 1 肥大した前立腺の内腺と外腺の項目にホルミウム・ヤグレーザーを照射し、内腺のみをくりぬくように核出します。
- 2 核出した内腺を、膀胱内に移動させます。
- 3 前立腺組織をすべて膀胱内に移動させた後、モーセレーターという機器を用いて、前立腺組織を細かく切断しながら、吸引し、体外に排出します。

用いた手術ですが、従来の手術を応用した工夫を凝らすことで低出力のレーザーを用いても施行することが可能になりました。従来の前立腺肥大症に対する経尿道的手術(TURP)では100gを超える大きな前立腺には出血量も多く困難でしたが、そのような症例にも比較的完全に手術が可能となり、従来の手術に比較しても合併症もほぼ同程度で成績も良好です。前立腺肥大症に対する手術も、高価な新しいデバイスを用いた治療が次々とできていますが、高度な前立腺肥大症に対しての長期の成績ではレーザー核出術が優れています。手技が困難で京都ではあまり行っている施設は少なく、府立の関連では当院のみです。前立腺肥大症は薬物療法が良くなっており手術を受けられる患者さんは高度に腫大した症例を重ねてすこしでも選んでいただける病院を目指していきたいと思

リレー記事

第5回目 経理課

昨年の2月終わり頃、我が家に新しい家族が増えました。

皆さんは、キャリアアチェンジという制度をご存知でしょうか？パピーウォーカーという言葉は、世間でもよく聞きますよね？盲導犬になる子犬を育てるボランティアの事です。キャリアアチェンジとは、様々な理由で盲導犬に向かないと判断された犬を家庭犬として引き取るボランティアの事です。

先代の犬が亡くなり、ペットロスになっていた我が家に黒のラブラドルレトリバーのマリーがやってきました。マリーは、性質は盲導犬に適しているのですが、アレルギー体質だった為、盲導犬になるとユーザーさんの負担が大きくなるという理由でキャリアア

チェンジになった犬でした。盲導犬の訓練を受け



ていた為、先代犬とは違い大人しく賢く穏やかな、まるで別犬種のような性格の犬です。

休日は、何も無ければ家でゴロゴロしていました。マリーが来てからは、1日4回決まった時間にトイレに連れて行かなければいけない為、以前より清く正しい生活になりました。出不精で運動不足な私を強制的に外に連れ出してくれました。散歩は1人が4回も行くのは大変なので、朝・昼・夕方・夜と分担して行っています。しかし、犬と私の運動不足解消の為、特に休日は長めに行くようにしています。散歩中は、道の角や交差点等その都度止まる訓練を受けていた為、なかなか先に進ませてくれません。全然車が来ない信号では、青信号になって渡ろうとしても赤信号の時と変化が無い為、安全が確認できなかったのか全く動いてくれませんでした。やっと動いてくれたのは他の歩行者が現れた時でした。最近、我が家流を学んでくれたのか、全く動いてくれないということはありませんでしたが、訓練をうけていた賢さはまだまだ残っています。

犬の体質を考えると、食事は準療養食。シャンプーは5日に1回。盲導犬協会との誓約で4時間以上留守番させてはいけません。色々と大変ではありますが、人懐っこく可愛い犬との生活を楽しんでいきます。

病院の近くをよく散歩していますので、良ければ声をかけて下さい。

経理課 笠原 美香

日時／2018年2月8日(木) 19:00~20:30 場所／京都ガーデンパレス

鞍馬口カンファレンス

地域医療機関との病診・病病連携により、医療知識・医療技術の向上及び地域の先生方との連携を深めることを目的に、鞍馬口カンファレンスを実施いたしました。

【参加人数(当院42名、当院以外(開業医の先生方等)33名)】

一般演題

19時~19時20分

座長／京都鞍馬口医療センター 内科系診療部長 村頭 智先生

「C型肝炎に合併したITPに対し

ロミプロスチムを投与した症例」

京都鞍馬口医療センター 内科部長 初瀬 真弓先生

一般演題

19時20分~19時50分

座長／陶山医院院長 陶山 芳一先生

「インターフェロンフリー時代の

C型肝炎治療」

京都鞍馬口医療センター 消化器内科 千藤 麗先生

特別講演

19時50分~20時30分

座長／京都鞍馬口医療センター 統括診療部長 菅沼 泰先生

「下肢に生ずるスポーツ外傷・障害と

当院のスポーツ整形外科センターの役割」

京都鞍馬口医療センター スポーツ整形外科センター長 原 邦夫先生

次回は日30年8月23日を予定